

ベートーヴェン生誕250周年 1770-1827 250th 100th ミケランジェリ生誕100周年 1920-1995

ASAHINO SHIGERU Piano Recital

ALL BEETHOVEN Program



浅野 繁 ピアノリサイタル

～恩師・ミケランジェリに捧ぐ～

2020.10.18 日

14:00 開演 / 13:30 開場

仙台市シルバーセンター 交流ホール

一時期はコンサートも中止、又は延期という状況でしたが、
今日この様に演奏会が持てる事は喜び以外の何ものでもありません。

ご来場の皆様には心より感謝申し上げます。

ベートーヴェンは申し上げるまでもなくクラシックでは最も愛される作曲家でしょう。
恩師ミケランジェリ先生もベートーヴェンの作品を主なレパートリーとして生涯弾き続けました。

ちなみに先生は1970年、ボンでのベートーヴェン生誕200年祭で

ベートーヴェンプログラムによるリサイタルを行っています。

二人共、私が音楽を続ける上での大きな糧です。

ベートーヴェンの世界には尽きる事はありませんが、精一杯演奏します。

今日のこのひと時、暫しベートーヴェンの偉大ながら人間味溢れる世界に浸り、
味わっていただければ幸いです。

浅野 繁

プログラム ～オール・ベートーヴェン～

ピアノ・ソナタ第3番 ハ長調 作品2-3

Piano Sonata No.3 C-dur Op.2-3

- 第1楽章 Allegro con brio
(速く、活気を持って)
- 第2楽章 Adagio
(ゆっくりと)
- 第3楽章 Scherzo: Allegro
スケルツォ: (速く)
- 第4楽章 Allegro assai
(非常に速く)

ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 作品31-3

Piano Sonata No.18 Es-dur Op.31-3

- 第1楽章 Allegro
(速く)
- 第2楽章 Scherzo: Allegretto vivace
スケルツォ: (やや速く、活発に)
- 第3楽章 Menuetto: Moderato e grazioso
メヌエット: (節度を持って優雅に)
- 第4楽章 Presto con fuoco
(極めて速く、炎のように)

【休憩】

ピアノ・ソナタ第21番 ハ長調 作品53 「ワルトシュタイン」

Piano Sonata No.21 C-dur Op.53 "Waldstein"

- 第1楽章 Allegro con brio
(速く、活気を持って)
- 第2楽章 Introduzione: Adagio molto
序奏: (大層ゆっくり)
- 第3楽章 Rondo: Allegretto moderato - Prestissimo
ロンド: (やや速く、和らかく—極めて速く)

ピアノ・ソナタ第3番 ハ長調 Op.2-3

彼は21歳の時、故郷ボンを離れウィーンに移り住み、本格的に音楽家としての活動を始めました。Piano Sonata Op.2の3曲はその第一歩であり、それまでのソナタとは一線を画し、古典派の1つの完成形が見られます。

中でも第3番ハ長調は、ベートーヴェンの作曲家、演奏家としての力量がうかがわれ、自信に満ちた「青春」が感じられます。

ピアノ・ソナタ第3番 Op.2-3 出版 1795

ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 Op.31-3

「テンペスト」と同じ時期に書かれたソナタでベートーヴェンは再び4楽章構成に挑み、スケルツォとメヌエット楽章を含むなど様々な工夫を凝らしています。自由な発想と展開、即興性も富んでおり、熟練された技巧も随所に見られます。

ピアノ・ソナタ第18番 Op.31-3 出版 1804

ピアノ・ソナタ第21番 Op.53
「ワルトシュタイン」 出版 1805

ピアノ・ソナタ第21番 ハ長調 Op.53 「ワルトシュタイン」

ベートーヴェンのソナタではどの曲にも挑戦と自信がうかがえます。中期の傑作「ワルトシュタイン」では新たな可能性を大きく広げました。崇高な精神性と共にベートーヴェンの曲に込めた思いが、様々な奏法、ペダリングなどからもうかがわれます。

1770

12月16日神聖ローマ帝国（現・ドイツ）のボンに生まれる。
14歳よりオルガニストとして家計を支える。

1787

ウィーン旅行中にモーツァルトを訪ね演奏披露する。

1788

ワルトシュタイン伯爵がボン宮廷騎士に來任。ベートーヴェンの才能を認め、以後、経済・精神両面で支援する。

1790

ボンの宴席で初めてハイドンに会う。

1791

モーツァルト、ウィーンにて死去。

1792

ウィーンに移住する。
ピアノの即興演奏の名手として名声を博す。

1795

3月29日、ウィーンでピアノ協奏曲を演奏し、作曲家としてデビューする。

1797

シューベルト、ウィーン郊外で生まれる。

1799

ピアノソナタ第8番 Op.13「悲愴」出版
ピアノソナタ第14番 Op.27-2「月光」出版

1802

弟たちへ手紙「ハイリゲンシュタットの遺書」を書く。難聴や人間関係の絶望から自殺を考えるも、音楽への情熱をもってこの苦難を乗り越え、芸術家としての運命を全うする意欲を得て、新たな芸術の道へ進むことを宣言する。

1803

パリのエラール社より新型ピアノを寄贈される。

1804

ピアノ協奏曲第3番 Op.37 出版

1805

交響曲第3番「英雄」の発表を皮切りに、10年に渡って中期を代表する作品が書かれる。「熱情」(07)「運命」(09)「皇帝」(10)など。

1822

最後のピアノソナタ、第32番 Op.111 完成

1824

5月7日、ベートーヴェン立ち合いの下、ケルントナトア劇場で交響曲第9番「合唱付き」初演。大成功を収める。

1827

1926年に病状が急激に悪化し、病臥に伏す。翌年の3月18日、シューベルトが見舞う。4回の排水手術が行なわれる中で10番目の交響曲に着手するも、未完成のまま3月26日、肝硬変のため生涯を閉じた。享年58（満56歳没）。葬儀には2万人が参列した。



浅野 繁

宮城県加美町出身。佐々木美佐子氏の指導でピアノを始め、後に庄司芳武、石橋ときわ、大西愛子の各氏に師事。1964年第8回全東北ピアノコンクール第1位、文部大臣賞受賞。1965年桐朋学園高校音楽科に入学。井口愛子氏に師事。1970年第39回日本音楽コンクールピアノ部門第2位入賞。1972年桐朋学園大学音楽学部を音楽賞を得て卒業。1976年文化庁在外研修員としてスイスに留学し、アルトゥーロ・ベネデッティ＝ミケランジェリ氏に師事。1980年帰国。東京、仙台を中心に各地で演奏活動を再開。ソロリサイタルの他、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現仙台フィル）等のオーケストラと協演。仙台ニューフィル、鹿児島交響楽団など、アマチュアオーケストラとの共演も行う。1994年宮城教育大学管弦楽団とベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲全曲演奏会を行った。1974年ヴァイオリニスト小林武史氏との国際交流基金の要請による東南アジア演奏旅行。1982年同氏と日中国交回復10周年記念音楽使節。また、アメリカ、ポーランドなど、国外での演奏活動も行っている。昭和62年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。平成7年度宮城県芸術選奨受賞。宮城学院女子大学名誉教授。



恩師・ミケランジェリ先生と

35th Anniversary Gruppo Figaro concert

グルッポ・フィガロ～小さな音楽会～
35周年アニバーサリーコンサート

入場無料
100席限定
【要整理券】

2020.10/25 日 14:00 開演 / 13:30 開場 仙台市戦災復興記念館 記念ホール

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対策を講じて開催いたします。
※整理券をお求め頂きましたお客様のお名前とご連絡先を事前にお伺いしております。
※やむを得ない事情により、延期または中止となる場合があります。

お問い合わせ 館ムジカ
090-7282-5211
<http://yakatamusica.ciao.jp/>

